

今月号の主な内容は、

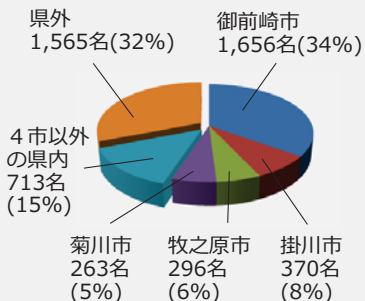
- 工事の進捗状況等
保管場所・アクセスルート
- 浜岡原子力発電所における静岡県防災・原子力学術会議の実施
- 津波対策工事ほか追加工事における、静岡県と御前崎市による点検および確認です！



浜岡原子力発電所従事者数
(8月1日現在)

4,863名(安全性向上対策工事従事者以外を含む)

【御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市在住：2,585名(53%)】



【工事の進捗状況等】

○ 保管場所・アクセスルート

可搬型重大事故等対処設備を配備するため、保管場所を発電所構内の西側、東側の高所に分散して配置します。また、それぞれの保管場所から4号炉原子炉建屋へのアクセスルートを確認します。

① 東側保管場所工事の様子



③ 西側保管場所工事の様子



【浜岡原子力発電所における静岡県防災・原子力学術会議の実施】

8月6日、浜岡原子力発電所において静岡県防災・原子力学術会議が実施されました。

本会議では、浜岡原子力発電所で現在おこなっている安全性向上対策や、従前から実施している安全対策の取り組みなどの現場確認が実施されました。現場確認では、防波壁や注水ポンプ車による訓練などをご確認いただきました。

現場確認終了後、静岡県防災・原子力学術会議原子力分科会長から、「本日の現場確認で、安全に対する中部電力の強い意気込み・取り組み姿勢が伝わってきた。引き続き、新規制基準への適合だけで満足することなくさらなる高みを目指して継続的に改善をおこなってほしい。また、防災対策についても充実に向けて国・自治体・関係機関と協力して継続的に改善をおこなってほしい。今後、静岡県防災・原子力学術会議で浜岡原子力発電所の安全性を検証していくにあたっては、重大事故対策・地震対策・火山対策・津波対策・使用済燃料の取扱いの5項目を論点として議論を進め、必要に応じて国からも説明を受けながら実施していきたい。」との講評がありました。



防波壁 現場確認の様子



注水ポンプ車による訓練 現場確認の様子

【津波対策工事ほか追加工事における、静岡県と御前崎市による点検および確認】

58回目となる8月8日、外部火災対策（防火帯の設置）および発電所敷地東側西側盛土の嵩上げについて点検を受けました。

静岡県から、「外部火災対策（防火帯の設置）および発電所敷地東側西側盛土の嵩上げについて、中部電力の計画どおり実施されていることを確認した。特に外部火災対策は、工事完了後においても維持管理が重要であるため、しっかり対応してほしい。」との講評をいただきました。

御前崎市から、「外部火災対策（防火帯の設置）および発電所敷地東側西側盛土の嵩上げについて、中部電力の計画どおり実施されていることを確認した。その他の安全性向上対策工事についても、今後とも市民に安心していただけるよう着実に進めてほしい。」との講評をいただきました。



外部火災対策（防火帯の設置）点検の様子



発電所敷地東側西側盛土の嵩上げ 点検の様子

【審査会合】

原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。
(3,4号機を申請中ですが、現在4号機の審査が進められています。)

<4号機の進捗状況>

(平成28年8月30日現在)

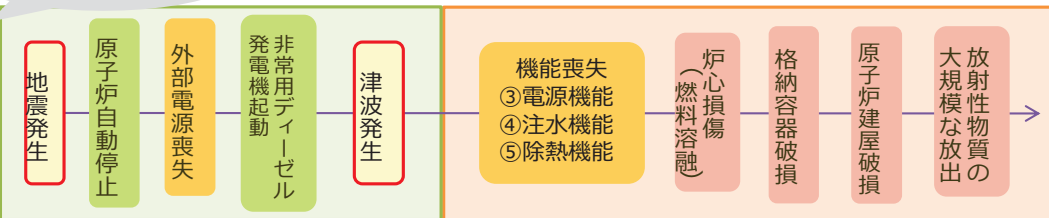
| 項目 | 地震・津波等に関する事項 | | プラントに関する事項 | |
|----|--------------|------|------------|------|
| | 回数 | 計14回 | 合同で2回実施 | 計55回 |
| 回数 | | | | |

審査は、地震・津波等に関する事項とプラントに関する事項に分けておこなわれています。今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力していきます。

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへ紹介いたします。

①福島第一の話 福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話 従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定の大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、備え付けの設備だけではなく、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準対策設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

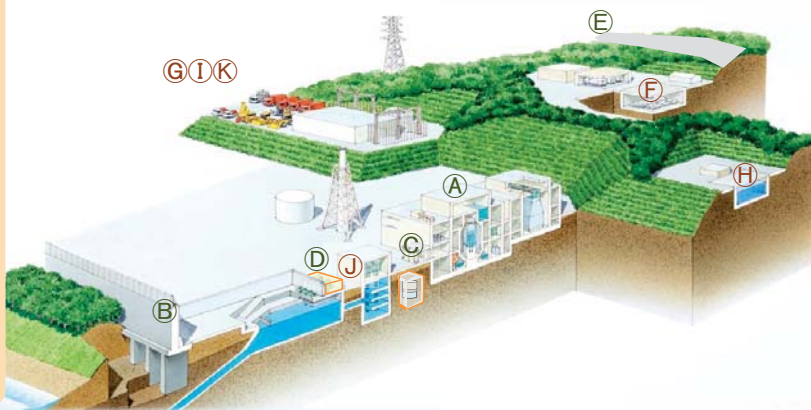
- 地震に耐える。**
 - Ⓐ配管サポート
- 津波を浸入させない。**
 - Ⓑ防波壁
 - Ⓒ大物搬入口
- 自然災害に備える。**
 - Ⓓ飛来物防護対策 (竜巻対策)

【主な重大事故等対策設備】重大事故等の発生に備え、冷やす機能を確認し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

- 電源機能強化**
 - Ⓕ恒設
 - Ⓖガスタービン発電機
- 注水機能強化**
 - Ⓖ可搬
 - Ⓖ交流電源車
- 除熱機能強化**
 - Ⓖ緊急時淡水貯槽
 - Ⓖ可搬型注水ポンプ車
 - Ⓖ緊急時海水取水設備
 - Ⓖ可搬型取水ポンプ車

重大事故時に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確認し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

- Ⓔ竜巻防護用の鉄板および金網を設置
- Ⓔ海水取水ポンプ
- Ⓔ防火帯



③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班の立ち上げ準備をおこなっています。

24時間 365日体制
緊急時に特化した幅広い対応力



役割 (現在13名)
・戦略検討
・アクセスルート確保
・可搬設備の操作等
現場対応

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>
・大型自動車免許
・けん引免許
・移動式クレーン免許
・危険物取扱者 (乙種4類) など

【資機材の充実】

発電所での活動に支障をきたさないよう様々な資機材を配備しています。

配備数を見直し、必要に応じて追加しました。



タイベックスーツ

【訓練の充実】目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



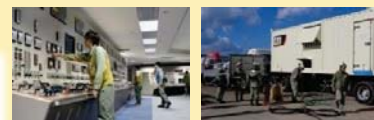
主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を平成27年度から実施しています。

現場訓練



シミュレータ訓練

電源車操作訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。

浜岡原子力発電所では、安全性向上対策工事を進めています。また、配備された設備が期待通りの機能を発揮することができるよう現場対応力を強化しています。今後とも、更なる安全性の向上に努め、地域をはじめ社会のみならず、より信頼される発電所を目指して取り組んでまいります。